

「新しい医療・介護のテクノロジー」シンポジウム

- 医療・介護の未来を拓く、最新住環境テクノロジー - 報告

2018年2月17日（土）表記シンポジウムが前橋工科大学にて開催されました。NPO WBN では上記シンポジウムへの開催支援を通して後援しました。以下はその開催支援報告です。

シンポジウム：第2回「新しい医療・介護のテクノロジー」シンポジウム

開催日時：2018年2月17日（土），p.m. 1:30 - 4:00

開催場所：前橋工科大学 1号館 5階 151室

主催：NPO 法人 バイオフォーラム

共催：群馬大学／前橋工科大学

後援：NPO 法人 ワイヤレスブレインネットワーク

シンポジウムは前橋工科大学星学長、NPO バイオフォーラム理事長白尾教授（群馬大学大学院医学系研究科）よりの開会挨拶で開始され、当シンポジウム運営委員長土橋教授（群馬大学大学院保健学研究科）座長のもと講演が始まった：

最初の講演は「未来の住宅と IT」と題して増田文彦氏（株式会社 山田・ウッドハウス代表取締役社長）、宮原年明氏（株式会社ヤマダ・エスバイエル代表取締役社長）によりなされた。講演では今後高齢化が進む住環境の中で住み易い住宅を提供して行くための IT（Information Technology）化による実践と、将来の IoT を取り込んだ新たな技術開発の可能性を紹介した。

二つ目の講演は「住環境と健康」と題して、三田村輝章氏（前橋工科大学建築学科 准教授）より“室内の熱・空気環境による健康影響”について、特に屋内における温度差の影響（ヒートショック調査）とアレルギー物質による影響（activeCD4+T 細胞比率の増減率比較）等について述べられた。その後、10 分間のコーヒブレークに続いて、山口智晴氏（群馬福祉医療大学教授）による「認知症と住環境」と題して、住んでいる家の構成と認知症の加速・軽減効果などについて講演がなされた。4 番目の講演は古賀紀江氏（関東学園大学教授）により「健康生活の環境行動デザイン」と題して、“一般には馴染みの薄い環境行動デザインと云う概念”について具体例をあげて解説された。聴講者として興味を持ったのは「バリアフリーばかりではなく健康的に暮らせる住み屋のデザイン」と云う言葉であった。古い家で土間から中縁の高さが 50cm もある家はどう見てもバリアフリーからは遠い造りですが、そこに住んでいる報告者としては、運動能力減退や認知症への耐性と云う見地からは利点もあるのではないかと云う思いもあったので、最後の一言に意を強くした次第です（ただ、この印象は報告者の独り合点であり、当方の曲解かもしれない、古賀氏の講演意図は異なるかもしれない、と云うことを付け加えておきます）。その後、総合討論が白尾理事長、土橋副理事長座長の下開催され、特に鈴木守元群馬大学学長より貴重な意見を戴いた。

講演終了後、工科大学学生会館で交流会が（群馬大学医学系研究科科長石崎泰樹教授挨拶、堀越淳 NPO WBN 理事長乾杯発声で）開かれ、多くの聴講学生と和やかな時間を持つことができた。

（NPO WBN 出席者：今村一之理事、西本牧子理事、岡田富男理事、堀越 淳）